

組合すていしょん

～組合事務局紹介～

松阪木質バイオマス熱利用協同組合

島田宗吉工場長にお話を伺いました。当組合の事務局は、事務3名、工場担当者(オペレーター)8名、派遣1名の合計12名です。事務局の主な仕事の内容は工場内におけるメンテナンス、部品や薬品の発注、経理事務一般を行っています。島田氏は、平成19年4月の設立当初から理事として、そして今年6月から工場長を兼務して責務を担っています。

当組合では、木質チップを燃料にボイラーを24時間体制で稼働し、発生した蒸気を組合員である辻製油株式会社、井村屋株式会社松阪Newようかん工場、うれし野アグリ株式会社に供給し、それぞれ食用油の製造工程や機械の洗浄、冬場にトマト栽培ハウス内の室温調整等に活用されています。

木質チップを燃料として利用することはCO₂削減にもなり、地球環境にもやさしいシステムで、見学を訪れる方もいますよと教えてくださいました。見学者にわかりやすく説明すること、また、今後、さらに省エネにつながるよう改良していくこと、職員の

健康管理、福利厚生にも気をつけていますと答えてくださいました。



左から大島寛司さん、島田宗吉工場長

段ボール箱のこと

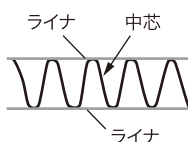
ちよつと教えてください！

今回は、段ボール箱について三重県紙器段ボール箱工業組合さんに教えていただきました。

Q 段ボールの仕組みについて教えてください。

A 段ボール板を横から見ると、上下の平らな紙(ライナ)にナミナミした紙(中芯(なかしん))が挟まれた三層構造になっているのがわかります。

中芯を波形にすることで、箱にした時の強さを発揮します。また、波形にすることでできる空間によりクッション性にも優れ、さらには、この空間が空気層となり、箱の内側の温度変化を抑えるという役割も果たしているのです。



Q 紙器・段ボール箱製造技能士という資格があるそうですが。

A 国家資格である技能検定制度の一種で、都道府県知事が実施する、紙器・段ボール箱製造に関する学科及び実技試験に合格した者をいいます。

Q 日本の段ボールの生産量は？

A 段ボールの生産量は面積で表し、1年間に日本で生産される段ボールは約137億平方メートルです。なかなかピンとこない数字ですが、東京ドームおよそ29万個分もの広さになり、三重県、滋賀県、奈良県の合計とほぼ同じ面積が1年間で生産されていることになります。また、段ボールの生産量は経済発展に連動するといわれ、世界全体では1位中国、2位アメリカに続いて日本は3位の生産量を誇ります。

Q 周りの空気を優しくするという不思議なダンボール「リラックス段」について教えてください。

A 段ボールの中芯部分(波形部分)に環境良化機能剤を挿入凝着させて開発した段ボールです。主な使用例として、避難所用資材として、消臭剤・抗菌剤・マイナスイオン発生剤・防腐剤など。遊具や教材として、抗菌剤、マイナスイオン発生剤、消臭剤など。生鮮食品包装材として、鮮度保持剤、消臭剤など。インテリアアクセサリとして、香料剤などがあります。社会に貢献できる製品を目指して開発しました。

業界
まめ知識